

会 員 の ひ ろ ば

あなたでなければいけなかった！

金沢区 ^{まつ}松 ^せ瀬 ^{かん}観 ^{おう}翁



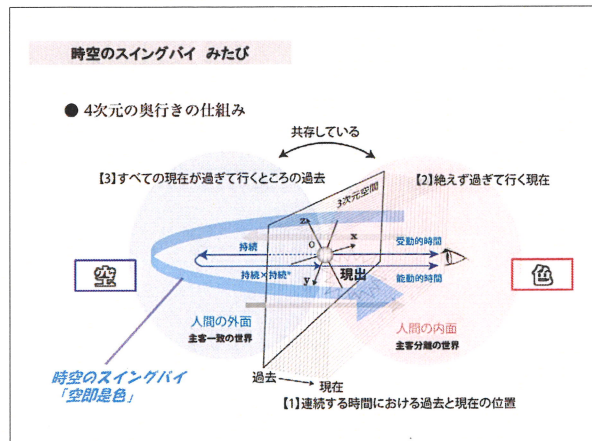
ヌーソロジーという言葉
を聞いた事がありますか？
哲学や宗教，量子科学を統
合した霊的唯物論であるが
実際は庶民の哲学である。
今回は前回の『過去は過ぎ
去らずここにあり，未来は
未だ来ず既にここにある』

の続きからだ。過去文は当院HPの恩寵の扉と
時空の扉に載せてあり誰もが読める。最終回は
私を救ってくれた充足理由律と場の論理につい
ても触れる。①～④の文章とスライド図とは対
応している。Aは人間の内面，時空，幅，中和
の内容。Bは人間の外面，持続，奥行き，等化
の内容。分かりづらいと思うので，予め書いて
おくが，内面とは目に見えない世界（物質世界
情報空間，象徴界）で後。外面とは目に見える
世界（精神世界，知覚空間，現実界）で前だ。
驚くかも知れぬが，テレビでしか見た事がない
人と，毎日会っている人とは，全く別の次元の
空間にいるが，皆知らず平然と過ごしている。

①時空のスイングバイ

まずは前回の文章の最終文から書き始める。
『まもなく人間の意識は二つの方向へと別れて
行きます。この時空の中に私はいるのだと言う
錯覚から解き放たれて，閉じ込められた時空から
脱出するのが意識進化の方向性です』二つの
方向とはこのまま時空に閉じ込められる事を是
とするか，それとも持続を見出し舵を切るかの
二つの方向である。4次元空間とは対象ではな
い。観測者の視線込みの観測空間である。時空
のスイングバイとは行って帰って来る事。一度

虚時間の世界（複素ヒルベルト空間）に入って
今度は時間と空間を送る側に回り戻って来る。
行きは $t \rightarrow it$ (i 虚数) で帰りは $it \rightarrow i^2 t$
(自己と他者で i^2 乗となる) = マイナス t
帰りの時間は負の方向性で反転している。



①時空のスイングバイ

A：絶えず過ぎて行く現在
時間を受け取る側（受動的時間）
局所 → 現出する時空，継起する今
人間の内面，主客分離の世界，幅の世界
今に生きられない因果律の世界，無が先手
物の外部，残像，鏡像，嘘鏡，沖津鏡，逆光
デジタル空間，後は記録でパラパラマンガ
流れ去る瞬間性の今 → 今の外部（4次元時空）
永遠の中にある瞬間（刹那） → 生の論理

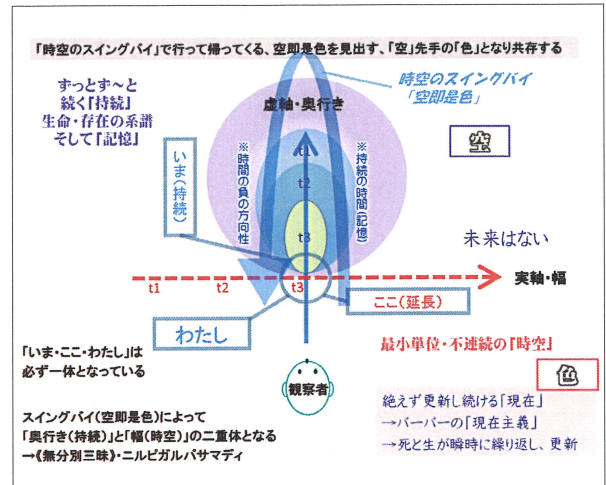
B：すべての現在が過ぎて行くところの過去
時間を送り出す側（能動的時間）
非局所 → いつでも今，どこでもここ
人間の外面，主客一致の世界，奥行きの世界
ずっと続く今の世界，相似律の世界，有が先手
物の内部（素粒子）実像，真鏡，辺津鏡，順光
アナログ空間，前は記憶（持続）で知覚正面
ずっと途切れない今 → 今の内部（4次元空間）
瞬間（血脈）の中にある永遠 → 死の論理

本来的自己と非本来的自己は共存している。
AとBの間が3次元空間で紙芝居様になっているのは、時空に最小単位がある事を表す。

私達は今の内部から外部を見ている。外部は記憶として今の内部へと回収されて行く。今ここを生きるとは、一瞬の中に永遠を見る私A→Bが**色即是空**→普遍性の中に個別性を見るB→Aが**空即是色**→個別性の中に普遍性を見る外面世界を発見した人は内面世界が分かるが、内面世界だけの人には外面世界は分からない。本来ずっと今なのに今を瞬間的としか感じられない。全てが嘘であると悟るのが**内面の発見**で永遠に変わらない実を悟るのが**外面の発見**だ。

②幅と奥行き

順序としては持続の方が継起し時空に映像が並置される。記憶の方が先で記録が後である。継起の時間である縦のt1,t2,t3(中今の時間)と同時性空間である横のt1,t2,t3(等質空間)を混同してしまった私達。幅と奥行きは直交し、いま、わたしは必ず一体となっている。次々と生産されて来る新しい現在は一瞬のうちに古い現在へと変わり純粹持続(記憶)に回収されていく。もはやそこに未来と言う時間感覚はない。未来を見てるのではなく、起きた事を回収している。起きた事は全て終らせるために起きた。未来はない!未来の記憶とは持続の事で、未来とは過去であったのだ。あるのは過去(記憶)だけで、記憶とは全体生命だ。絶えず過ぎて行く現在(幅)とすべての現在が過ぎて行くところの過去(奥行き)が共存してるのが同時存在(全体)である。全体を構成する一つ一つがモナド(霊的存在)であり、包み包まれ映し映される。彼の身即ちこれこの身、この身即ちこれ彼の身、佛身即ちこれ衆生の身、衆生の身即ちこれ佛身なり → 空海の即身成佛義。一即多多即一で全体とつながる連続の世界だ。



②幅と奥行き

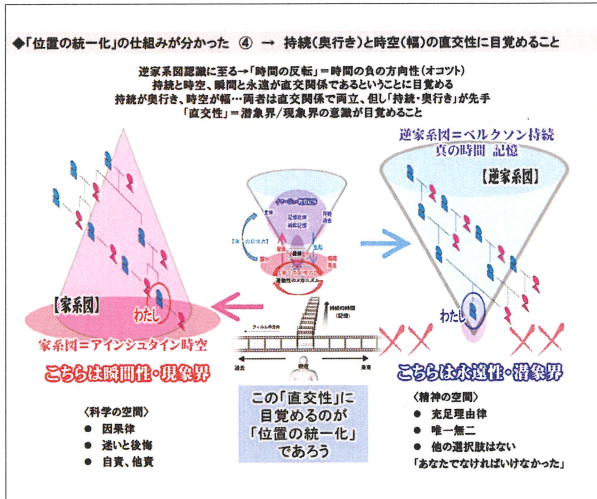
A: 実軸は幅 → 流れる時間, 時空, 付帯質
 アインシュタイン時空, 客観線, 記録, 量
 t1, t2, t3の横のライン → 全て同質で不連続
 t1, t2, t3は数えられた数で, 等質に並ぶ
 点時刻をいくら並べても流れにはならない
 本当は時間ではない → 同時性の空間である
 絶えず過ぎていく現在は瞬間的で幻想
 私達は心理学的な現在しか知らないのが事実
 後は外延, 遠心性のくり広げの渦
 時空はマクロに弛緩, 膨張している

B: 虚軸は奥行き → 流れない時間, 持続, 精神
 ベルクソン持続, 主観線, 記憶, 質
 t1, t2, t3の縦のライン → 中今の連続性
 t1, t2, t3は数える数で, すべて異質
 t3は過去のt1 t2の記憶が積み上がっている
 一度も現在になった事がない過去(純粹過去)
 こちらが本当の時間(生命の時間)
 一瞬一瞬が唯一無二であり, 一期一会
 前は内包, 求心性の巻き込みの渦
 持続はミクロに収縮, 反復している

唯一無二の奥行きの道, そこに至る道は一人一人違う。他人と一緒にいる事など出来ない。4次元は精神の空間だ。私達は光を対象として見ているが, 光も精神で私の意識そのものだ。

③家系図と逆家系図

あなたでなければいけないは自由意志の返上である。自由とは選択肢の中から選択する能力ではない。私達には選択肢の中から選ぶ能力はない。何故ならすべて必然だから。それ以外の選択肢はなかった。私達に自由意志はないけど失敗概念もない。ただ受け取るだけである。



③家系図と逆家系図

A：家系図認識（原因論，因果律）

先祖，父母によって私が生まれた
私を客観視する幅認識 → 架空の第三者視点
多く（80億）の中の一人 → ワンオブゼム
幅，単なる偶然（確率の問題）マトリクス
絶えず他の選択肢や可能性にさらされている
平行世界（別の生き方があったのでは？）
失敗概念あり → 自責や他責，迷いと後悔
アインシュタイン時空（幅，科学の空間）
過去から未来へと直線的に流れる時間
客観的な見方，経験的意識（自我 $\psi 6$ ）
中和とは反復，表裏一体，分離，相対性
同一性に従属する差異 → 同質異体
顕在化した思形 $\psi 9$ → 思考を受け取る
時空とは記録の世界，目の前は全て物質
普通の時間認識，因果，瞬間性，現象界
因果律，原因論，体主霊従，定量的，虚無

B：逆家系図認識（縁起，充足理由律）

私を生む為に先祖，父母が出会った
私の位置からの奥行き認識 → 私固有の視点
オンリーワン → 他の選択肢なし 唯一無二
私の中に先祖代々全てが畳みこまれている
他の可能性を取らなかった（他の可能性を閉じた）と言う意味での必然，一期一会
充足理由律（～でなければいけなかった）
ベルクソン持続（奥行き，精神の空間）
時間の負の方向性，能動的時間の生成
主観的な見方，超越論的意識（自己 $\psi 5$ ）
等化とは差異，表裏消失，統合，双対性
差異に従属する同一性 → 異質同体
顕在化した感性 $\psi 10$ → 感じ取りに行く
持続とは記憶の世界。目の前は全て過去
同時律，共時性，縁起，永遠性，潜象界
理由律，目的論，霊主体従，定性的，即時

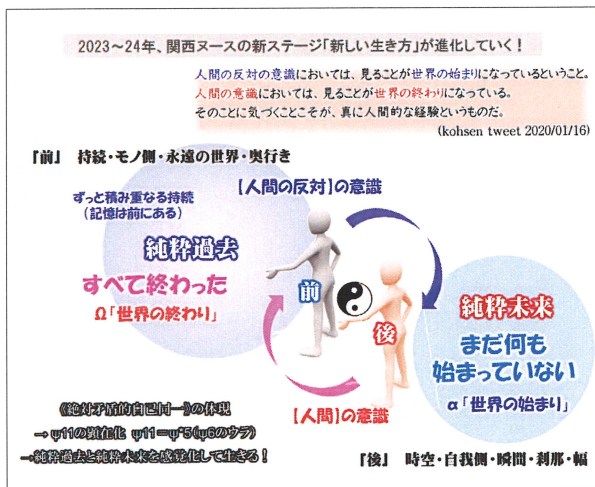
未来は決まっているが決まっていない。
未来が決まっていなければ変更は出来ない。
決まっていなければ自分で変更出来る。
過去の記憶も未来の記憶もここにある。そして
今この瞬間に変えられる。因果律なんてない！
いつでも因果律を克服した持続世界に戻れる。
いつでも唯一無二の体験をしている。自由とは
自己確認する事であり自分らしさを感じる事。

④新しい生き方とは

人間の意識においては見る事が世界の終わりで，人間の反対の意識においては見る事が世界の始まりになっている。この世界に入るために重要な事は，記憶は前にあると言う事を知っていなければならない。人間の反対の意識において，前はすべて終わった → 世界の終わり。前は持続，モノ側で奥行き，記憶は前にある！残念ながら私達は記憶は脳にあると勘違いしてる。人間の意識において，後は時空，自我側で幅。私達は映像の世界を人生だと思い込んでいる。後はまだ何も始まっていない → 世界の始まり。

会員のひろば

パン！月これで終わり。今の音は過ぎ去った。全部終わり、思い出しているだけで何もない。→ ノンデュアリティーの悟り。本当の世界は前にある。すべて終わったからこれからどうするしかない！中和側の純粹現在は時間が流れる時空、等化側の純粹現在は時間の流れない持続。純粹過去とは一度も現在になった事がない過去 → すべて終わった。純粹未来とは未だに未来にならない → まだ何も始まっていない。二つの違いを顕在化させ 過去と未来を等化（前後際断）すると、今この場所が世界の始まりかつ終わりと言う絶対矛盾的自己同一の場となる。不条理をも乗り越える即非の論理が成り立つ。



④新しい生き方とは

今ここは全ての可能性を捨てて舞い降りた場所。全体とは全てだから具体にはなれず絶対的一者が個物的多としての自己となるためには自己否定、自己限定せねばならない。そうする事で自身を肯定する → 自己否定即自己肯定。自己とは絶対的一者が自己認識したもの。個を極めれば、全体が押し上げて来る。個は全体が支えている。前に生きたなら人間の反対の意識が降りて来る。具体を一つ見たならば具体の目の前でつながれる。往還とは行って戻って来る事。私から見たあなた=自己他者を一体化した精神から見た私=対象に自分自身を見出す自己認識=すべて私 → ラカンの愛の方程式。

私達は純粹過去と純粹未来の境目が見えない。だから現在において過去 → 現在 → 未来の一方の流れしか感覚化する事が出来ない。まず過去から未来へと時間は流れると言う考え方をやめよう。意識も記憶も後につくらない。時間とは反復と持続だと感じる生き方が必要だ。自分の意識の位置が無限遠点にあると分かれば、目の前の景色は自分の心の世界であった事に気づく自然に還るとは、象徴界 → 想像界 → 現実界へと至る道で、前にカタチを見る時、各自が奥行き道へと収斂して行く。いつでも今、どこでもここに入れば誰でもない私を認識出来る。完

ヌースの始動は提唱者の半田広宣氏によれば2013年で、私がヌースを知ったのは2017年である。既存のゆるふわスピリチュアルに飽きて川瀬統心氏の初級ヌースレクチャーのDVDを買ったのが最初である。私は小さな頃から時間や空間とは何かを知りたかった。でも読んだ本の何処にも納得できる説明はなかった。永遠のヌース初級者ではあるが、半田氏の言う庶民の哲学と言う言葉の意味が分かって来た。覚醒は全体で起こるもの。春には花が咲き秋には果実が実る。そして咲くのも実るのも種が置かれた場所、今いる処で、その命は全体とつながる。この場をかりて両氏には感謝したい。と同時に本稿に誤った処があればお赦し願いたい。私は川瀬氏の大阪教室DVD（厳選された資料だけでなく、本当に大切な事は言葉やジェスチャーで伝えてくれる）のお気に入りの部分を、ただマトメただけだ。過去に私がマトメた拙い文章を読んでくれた皆様、本当にありがとう！またいつかどこかではなくいま、ここ、わたしでお会いしましょう。それでは、ごきげんよう！

参考文献

2013：人類が神を見る日

アドバンスト・エディション

半田広宣（著）徳間書店

2013：シリウス革命：精神世界，

ニューサイエンスを超えた21世紀の宇宙論

半田広宣（著）たま出版

新説・精神世界史講座

ワンネスは2つある

川瀬統心（著）ヒカルランド

関西ヌーソロジー研究会（主宰：川瀬統心）

大阪教室のDVD（バックナンバー多数）

スライド図の出典は

①無時間の顕在化（2021年6月）

②無時間の顕在化（2021年6月）

③2023年 上半期総集編プラス（2023年7月）

④純粹意識/純粹経験/純粹思考（2024年3月）